

**留学先国名** : カナダ

**留学先学校名** : McGill University

**留学期間** : 平成 28 年 8 月 25 日 ~ 平成 32 年 6 月 30 日

2016年の秋からカナダでの大学生生活が始まりました。留学先はケベック州モントリオールにあるマギル大学で、カナダ最古の大学です。モントリオールはカナダの中のフランス語圏ですが、マギル大学での授業は英語で行われています。

学生の25%は世界からの留学生で構成されており、そのうちの半分はアメリカからの留学生という、たいへんグローバルな環境で学ぶことができます。

街中はフランス語にあふれており、お店などでもまず、フランス語で話しかけられますが、出来ないと思われたら、英語で話しかけてくれます。北米のパリと言われるだけに、街並みもヨーロッパのようで、食べ物も豊富で美味しいことで有名な所です。

#### (新しい生活)

寮は留学前にインターネット上の学生用サイトで10個以上ある寮の中から順位をつけて申し込みをします。出来るだけ希望に添うように配慮されますが、必ずしも第一希望に入れるとは限りません。私の場合は、運よく第一希望の寮に入ることができました。その寮は元はホテルだったものを大学が買い取って学生寮にしたもので、部屋にはツインベッドが2つあり、ベッド正面の壁にはテレビと机があるという多くのホテルの部屋と似たような作りになっています。食事は寮費に含まれており、どの寮のカフェテリアで食事してもいいので、毎日違う寮に通っていました。カフェテリアや学校の周りにも日本食やアジア料理のお店があり、食事で困ることはあまりないと思います。

また、留学生が多い大学なので、留学生向けの対応に慣れていると感じることが多々ありました。学校が始まる前に銀行や携帯電話の開設をスムーズに行えるように、学校内にブースが設置され、一番の不安であったこれらのセッティングが難なく行えました。

日本領事館も近くにあり、在留登録を行いました。

#### (授業のシステム)

マギル大学の中で、私は Arts Faculty に所属しています。Arts Faculty とは日本でいうところの文系という意味で、その中から専門にする学部を決めていきます。特にマギル大学の Arts Faculty の2年生は専攻を決めるプロセスを大切にしています。そのため、最初の一年は授業選びには自由があり、一年をかけて自分が興味のある分野を見つけていくシステムになっています。アメリカのリベラルアーツカレッジと同じ考えです。私はもともと社会学を専門に勉強したいという思いがあったのですが、その思いをより強く感じることができ、また新しい分野に興味を持ち始める機会を与えてくれたとても大切な一年でした。

このように1年目は自分の興味分野を模索するのに費やし、今年の秋から始まる2年生の授業より、専門を極めていく予定です。

(授業での発見)

今まで受けた授業の中で一番印象に残ったのは Medical Anthropology、医療人類学という授業です。この授業では様々な人たちが持つ医療に関する概念、文化の違いから生まれる人の命に対する考え方などを学びました。この授業では日本国民が考える「死」の意味について取り上げられました。日本ではアメリカやヨーロッパに比べると脳死を「人が死んだ」印として認めることが難しいらしいです。そのため、日本での臓器移植は少ないという事実があります。理由の一つとして日本人の多くが体内にある「魂」を“命の印”と考えていて、脳が機能しなくなっても心臓が動いていることで脳死を人の死と受け入れにくいという考えがあると学びました。日本での医療現場での考え方を海外大学の授業で、色々な国からの留学生と共に学ぶ経験は海外にいる日本人としてはとてもおもしろい体験でした。私たちの文化や考え方の違いから生まれる医療の違い、そしてその違いが結果的に人の寿命や健康の違いに関わっていて、その違いから生まれる新しい文化や考え方の違いがあることにとても興味を持ちました。「人生をより良く、長くする」という同じ目的がある医療でも、関わる人間の文化的要素や環境などの違いによってこんなに差があるものかと自分が持っていた医療への思いが偏っていたんだなと強く感じました。

留学前からこのような勉強がしたいと思っていたのではなく、留学開始後に存在を知り、取った授業でしたが、日本では社会学的側面から医療について学ぶという講座はあまりないようなので、留学で得た大きな収穫だと思っています。

今秋から2年目の生活が始まります。1年目以上にたくさんの体験をし、今後とも真摯に何事にも取り組みたいと思っています。